

東北大

災害救助犬の「やる気」把握 サイバースーツ開発

毎日新聞 2017年11月1日 17時29分 (最終更新 11月2日 03時06分)



モデルの犬に着用させた「サイバースーツ」。心電計などを備え、犬の「やる気」が把握できる。左は開発した大野和則・東北大准教授=東京都内で2017年11月1日午後2時0分、千葉紀和撮影

災害救助犬の「やる気」を遠隔操作で把握できるサイバースーツを開発したと、東北大などの研究チームが1日、発表した。救助犬の集中力が高い状態で活動させれば、効率的な被災者捜索などにつながると期待している。

チームは犬用ベストに心電計やセンサーを搭載し、電極を体表に密着させて姿勢が変わっても測れるよう工夫。これらのデータから救助犬の「快・不快」を人工知能で推定する仕組みを開発した。心地よいときにやる気があると見なせるという。

東京都内であった発表会では、スーツを着用した犬の感情が、画面にリアルタイムで映し出される様子が披露された。スーツにはカメラや

全地球測位システム（GPS）も搭載しており、東北大の大野和則准教授は「2年後を目標にサイバー救助犬を実用化し、現場で活用してもらいたい」と話した。【千葉紀和】